

プラテローはむくむく毛が生えた、ふんわりした小さな**ろば**。ぼくがよぶとうれしそうに駆けてきて、
ぼくがあたえるものはなんでも食べる。

かわいらしくて甘えん坊。でもしんは石のように強い――

「ぼく」がプラテローに語りかけるようにしてつむがれる、
宝物のようなアンダルシアの四季。

この、詩のような物語を、心のまま感じてみてほしい。

心はいつだって自由だもの――**ねえ、プラテロー。**

フワン・ラモン・ヒメネス／作 長南実／訳 岩波書店



プラテローとぼく

『プラテローとわたし』 理論社ほか、ほかの訳者による本もあります。あなたのお気に入りのプラテローを見つけてみて